

研修名 保育士研修 B「はぐくみ」1（障がい児保育研修）

平成27年7月22日（水）13：30～16：00

講演「将来を見すえてつきたい力と保護者支援」

講師 張 貞京 氏

1 講演要旨

1) 子ども理解と発達障害理解

- ① 子どもとかかわる上で重要なこと
→・人のぬくもりやあたたかさを感じる経験を積む
・個を主とし、集団への意識と必要性を育む など
- ② 発達障害を理解する基本
→意図的にやっているのではなく、障害があるため、できないのだと理解する
- ③ 発達障害の原因
 - ・大脳辺縁系…感情記憶
 - ・セロトニン系神経…穏やかさ
 - ・ドパミン系神経…やる気・意欲
 - ・オキシトシン…協調性※女性は多く持っている 発達障害が男性に多い理由である（女性の3～4倍）
 - ・前頭前野・連合野…スケジュール管理能力→発達障害はこれらの脳の働きに問題が生じている
そのため神経系の問題は発達障害に気分障害のような疾患が併存する
可能性がある 例）季節や一週間の中で気分に波がある

2) 気になる行動とその対応

- ① 多動…動くとき全てが動く 例）しゃべっている時も体が動いている
→全てが動くのは集中しようとがんばっている姿なので、今やろうとしていることを認める
動きをやめさせるのではなく、体をさすって落ち着けるようにする
- ② 環境や事物の性質に素直に従う
例）ぶらさがったものは引っぱる、長いものは振り回す など
→そのようなものを見ると反応してしまうということを理解し、叱らない
そのような環境を作らないようにする、刺激を減らす
- ③ 集団から飛び出し取り組みに参加しない
→個々によって参加したくない理由がそれぞれあるので、その理由や興味を示す事柄を観察把握する

3) 保育上の留意点

- ・対象児の特性から許すべき範囲はどこかを見極める
興味関心を示していれば動きを制止させることにこだわらない
- ・人とかかわることの楽しさや心地良さを体験させてあげる
困った行動の多くは他者に思いを寄せることで軽減できる
- ・周りの子どもたちに対して保育士の対象児への思い・願いを伝え、互いに育ちあえるようにする
例)「〇〇くんだけずるい」などと言われることに対して対象児が何に困っているのかや、良い姿に変わっていけると期待しているということを伝える
- ・保育士の一言が集団の人数分になることに留意し、話をする

4) 保護者理解と対応

- ・育て方が悪いわけではなく、わが子に対する理解と対応法が分からず困っていると理解する
- ・コミュニケーションの方法を保護者の特性に合わせて工夫する
例) 伝えるべきことの優先順位・伝える方法(直接会う/書いて伝える) など
- ・保育士が子どものことを大切に思っていることや、どの子どもも成長発達してほしいと願っていることを言葉にして伝える

2 感想

具体的な事例や実際の子どもの姿を挙げながら話をしてくださり、とても分かりやすい講演でした。そのため、日常の自分の保育や子どもへの理解が十分かを振り返りながら話を聞いたので、共感できることや今後やってみようと思うことがたくさんありました。発達障害をもつ子どもに限らず、子どもの目線に立ってものごとを考えるということは子ども理解においてとても重要なことであると改めて感じ、忙しい中でも疎かにしてはいけないと思いました。今後この研修で学んだことを生かし、より子どもの心に寄り添った保育に努めていきます。ありがとうございました。

(記録 京田辺市立河原保育所 中川智香子)

